



# 熊本県内経済情勢報告

令和 8 年 1 月

財務省九州財務局



九州財務局に関する情報はこちら！！



ホームページ



X(旧Twitter)



Facebook

(問い合わせ先)

財務省九州財務局経済調査課

TEL 096-353-6351 (代表)

ホームページアドレス

<https://1fb.mof.go.jp/kyusyu/>

## 1. 総論

### 【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復している」

項目	前回（7年10月判断）	今回（8年1月判断）	前回比較
総括判断	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している	緩やかに回復している	➡

(注) 8年1月判断は、前回7年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

#### (判断の要点)

個人消費は、緩やかに回復している。生産活動は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、持ち直しの動きに一服感がみられる。

#### 【各項目の判断】

項目	前回（7年10月判断）	今回（8年1月判断）	前回比較
個人消費	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している	緩やかに回復している	➡
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡
雇用情勢	持ち直している	持ち直しの動きに一服感がみられる	➡

設備投資	7年度は減少見込み	7年度は減少見込み	➡
企業収益	7年度は減益見込み	7年度は減益見込み	➡
住宅建設	横ばいの状況にある	横ばいの状況にある	➡

#### 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、回復していくことが期待される。ただし、今後の物価動向や金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「緩やかに回復している」

百貨店・スーパー販売は、緩やかに回復している。コンビニエンスストア販売は、緩やかに持ち直している。ドラッグストア販売は、堅調である。ホームセンター販売は、横ばいの状況にある。家電大型専門店販売は、持ち直しつつある。乗用車の新車販売は、持ち直している。宿泊は、緩やかに回復している。

(主なヒアリング結果)

- メリハリ消費の傾向が続いており、食品売場は苦戦しているものの催事やセールについては好調である。美術や宝飾などの高額品も前年を上回って推移している。(百貨店・スーパー)
- 食料品は前年を上回って推移しており、12月は刺身やオードブル、手土産用の菓子がよく売れた。年始から足下にかけては客足が良く、全体売上げも前年を上回っており好調である。(百貨店・スーパー)
- 冬物衣料品がよく売れており、全体売上げをけん引している。また、バッグやメガネなど身の回り品が売れている。(大型商業施設)
- 販売促進施策の効果により、客数及び売上高は前年を上回っている。(コンビニエンスストア)
- 引き続き備蓄米は入荷するとすぐに売り切れる状況であるほか、輸入米も需要があることから品ぞろえを強化している。し好品の買い控えが顕著であることから、低価格の輸入菓子を取り入れている。(ドラッグストア)
- 11月上旬まで気温が高かったことから秋冬物の動きが鈍かったものの、園芸用品やDIY用品については売行きが良かった。(ホームセンター)
- 白物家電で前年の反動減がみられた一方、OSサポート終了に伴う買換え需要がみられたパソコンやゲーム関連商品が好調に推移し、売上げは前年比で増加した。(家電大型専門店)
- 10月は大雨で被災した自動車の買換え需要がみられ、12月以降は新車投入による受注台数の増加がみられた。なお、メーカーによる受注制限が続いているが、消費者の自動車購入意欲が低下している印象はない。(自動車販売店)
- 行楽シーズンは国内客・インバウンドともに個人客が好調であった。12月は閑散期になるにつれて物価高の影響で国内客が動かなくなっている。(宿泊業界団体)
- インバウンドは台湾や韓国を中心に引き続き堅調である。なお、中国人客の割合が少ないこともあり、日本への渡航自粛の影響は限定的である。(宿泊施設)
- 人気のある映画の集客効果もあって、飲食店は引き続き好調である。(大型商業施設)

### ■ 生産活動 「緩やかに持ち直している」

汎用・生産用機械は、半導体製造装置などを中心に高水準を維持している。食料品等は、横ばいの状況にある。電子部品・デバイスは、堅調である。化学は、横ばいの状況にある。

- 台湾や韓国向けを中心に受注が増加しており、足下の半導体製造装置の生産台数は前年を上回っている。(汎用・生産用機械)
- 例年同様の季節的な動きとして、猛暑により豚の成育が悪かった夏場に比べ販売頭数は増加している。(食料品等)
- 車載向けは需要の弱さが続いている一方、民生向けはスマートメーターなどの海外需要が増加しており、増産体制となっている。(電子部品・デバイス)

### ■ 雇用情勢 「持ち直しの動きに一服感がみられる」

有効求人倍率は、このところ低下している。新規求人数は、前年を下回っている。企業の人手不足感は、高い状況が続いている。

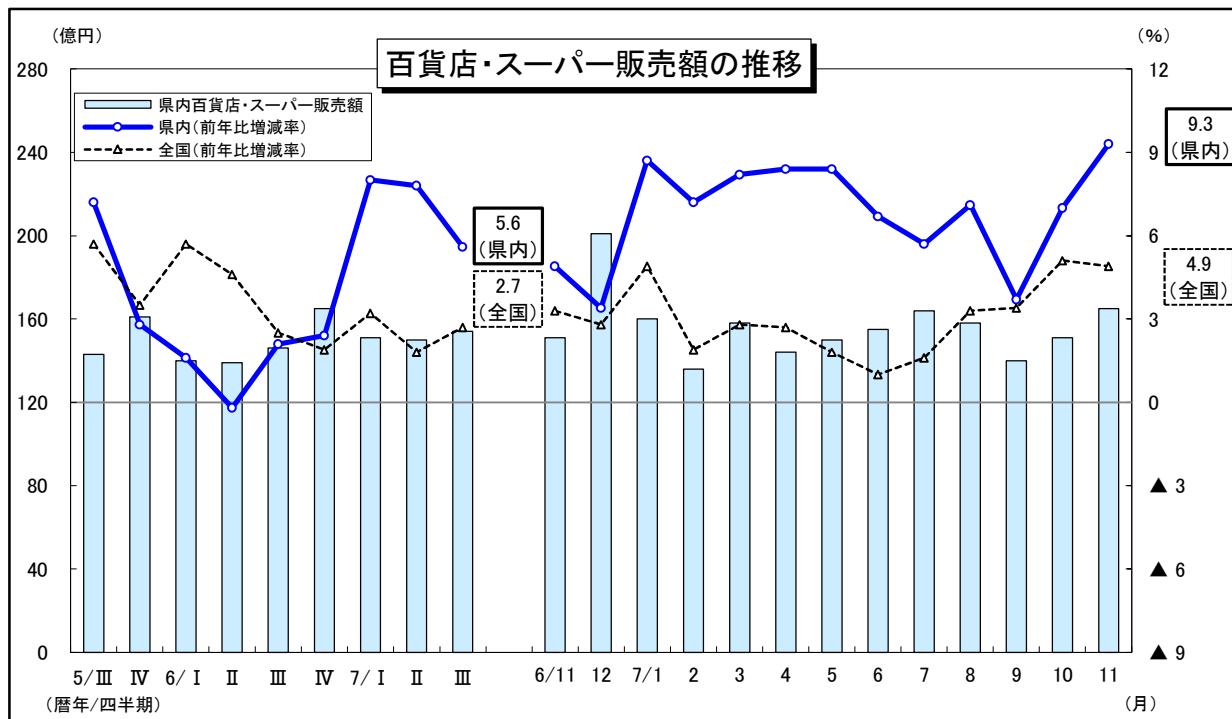
- 人手不足が継続しており、雇用情勢は引き続き堅調であるが、外国人雇用による充足や募集しても人が集まらないため現員で対応する動きなどにより求人人数が減少している。なお、物価高の影響による高齢者などの求職増の傾向は継続している。(公的機関)
- 外国人技能実習生を活用しているため人員は足りているものの、10年後を見据えた人材育成の観点からは若手の採用が必要。(窯業・土石)
- 最低賃金引上げに伴い、求人条件の見直しや募集開始時期の調整、賃金体系の再検討を目的とした募集の一時見合わせが一部でみられている。(職業紹介・労働者派遣)
- 様々な求人媒体を活用して募集をしているが、なかなかパート従業員が集まらない。(小売)

- 設備投資 「7年度は減少見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」7年10~12月期
  - 製造業では減少見込み、非製造業では増加見込みとなっている。
- 企業収益 「7年度は減益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」7年10~12月期
  - 製造業、非製造業ともに減益見込みとなっている。
- 住宅建設 「横ばいの状況にある」
  - 新設住宅着工戸数（7年9~11月）をみると、持家、貸家、分譲住宅いずれも前年を下回っている。
- 企業の景況感 「現状判断は『上昇』超」（全産業）「法人企業景気予測調査」7年10~12月期
  - 7年10~12月期の景況判断BSIをみると、全産業では「上昇」超となっている。  
先行き（全産業）をみると、8年1~3月期は「上昇」超の見通しとなっている。
- 公共事業
  - 公共工事請負金額（7年4~12月累計）をみると、前年度を上回っている。
- 倒産
  - 企業倒産（7年10~12月期）は、件数は前年を上回り、負債総額は前年を下回っている。

## 【参考資料】

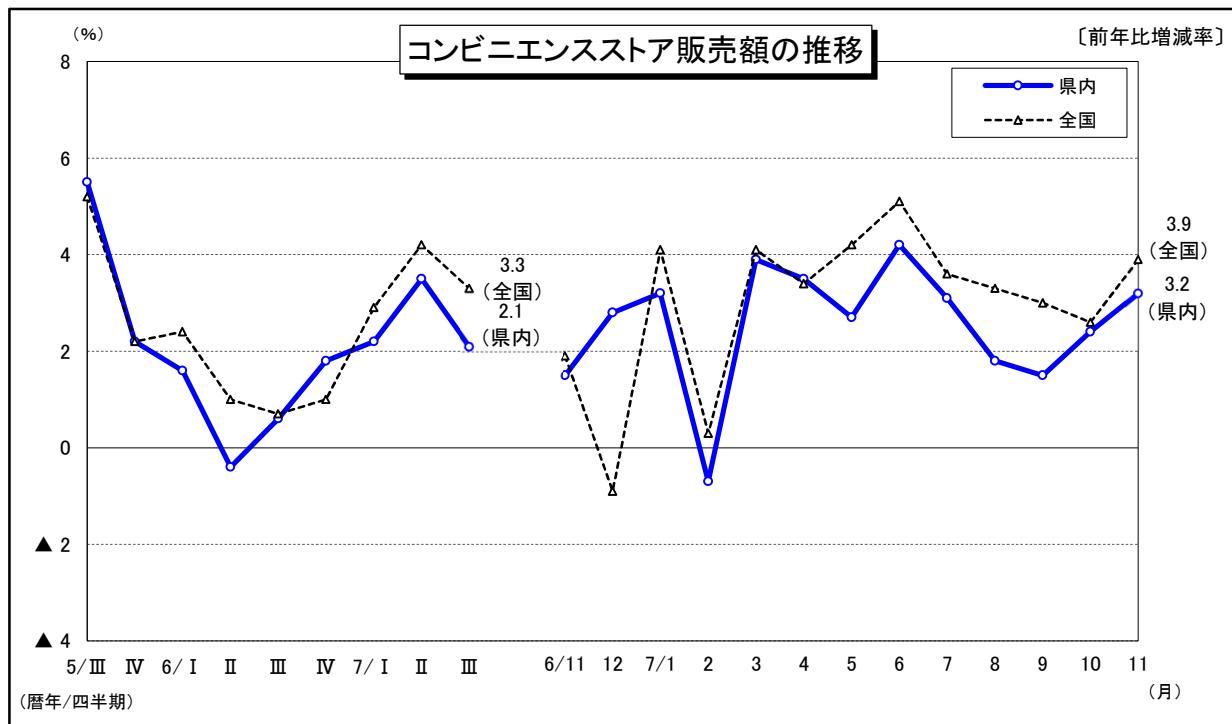
1. 個人消費 ..... 参-1
2. 生産活動 ..... 参-4
3. 雇用情勢 ..... 参-5
4. 設備投資 ..... 参-6
5. 企業収益 ..... 参-6
6. 住宅建設 ..... 参-7
7. 企業の景況感 ..... 参-8
8. 公共事業 ..... 参-9
9. 倒産 ..... 参-10

## 1. 個人消費



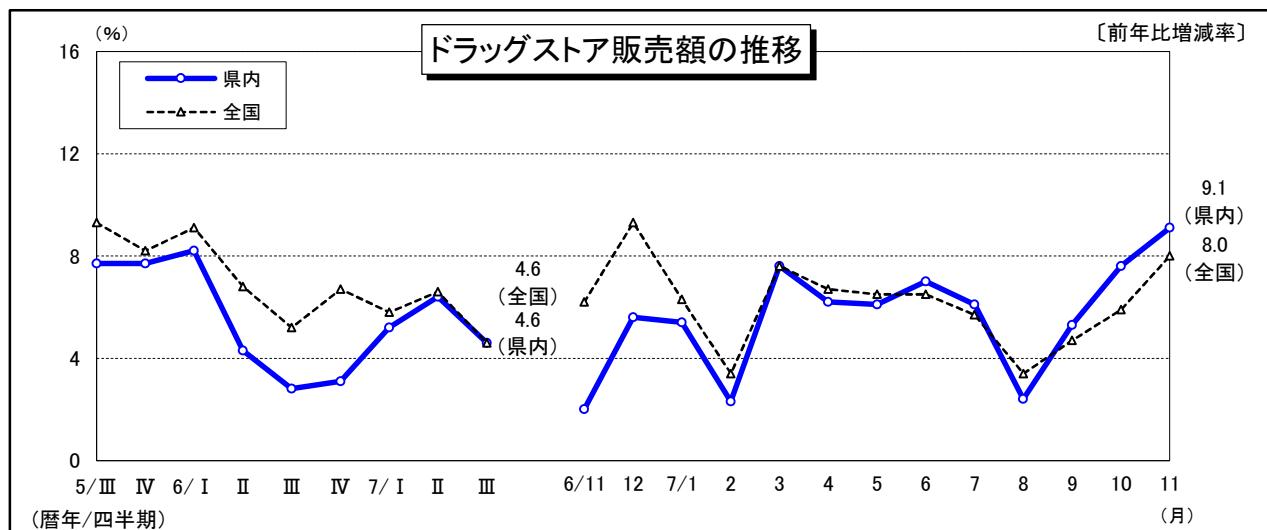
(注)全店ベース。四半期の棒グラフは月平均。7年11月は速報値。

[資料: 経済産業省]



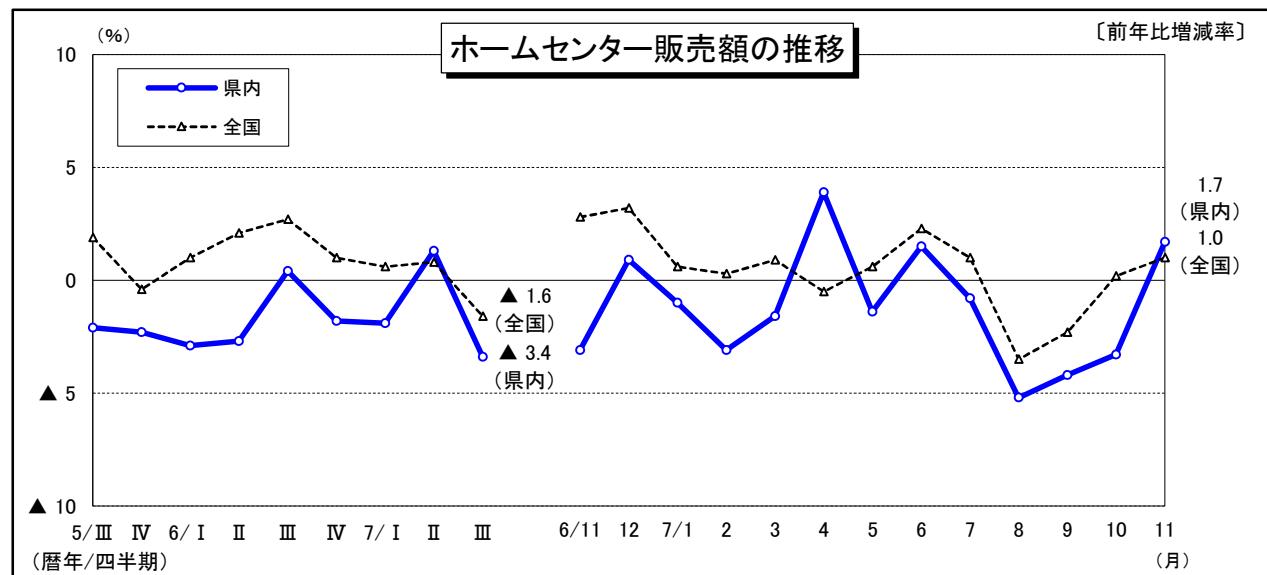
(注)全店ベース。7年11月は速報値。

[資料: 経済産業省]



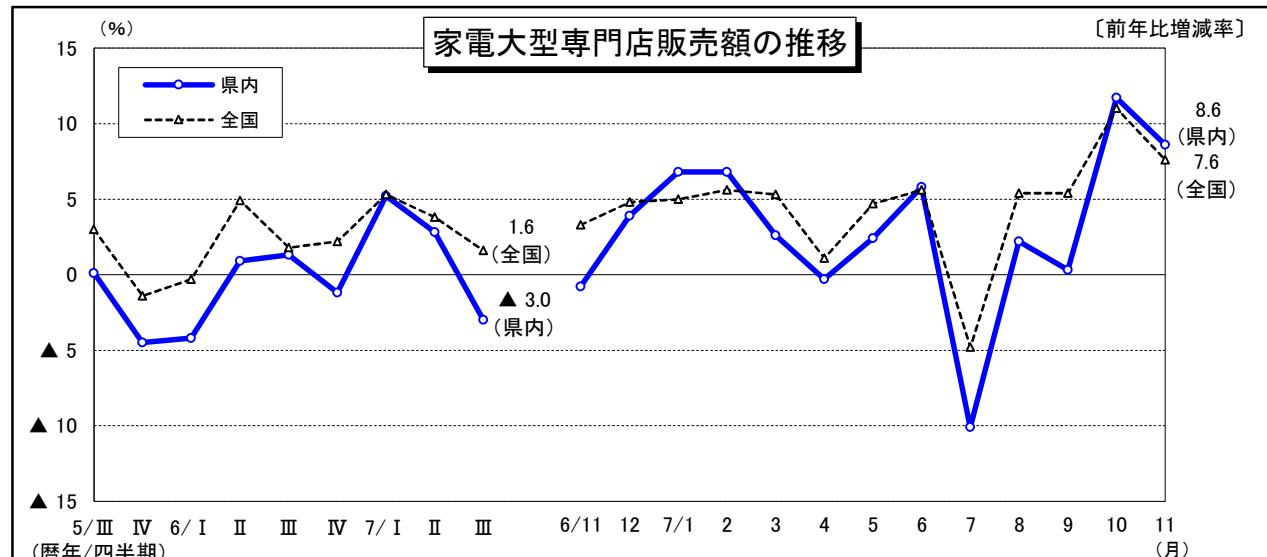
(注)全店ベース。7年11月は速報値。

[資料: 経済産業省]



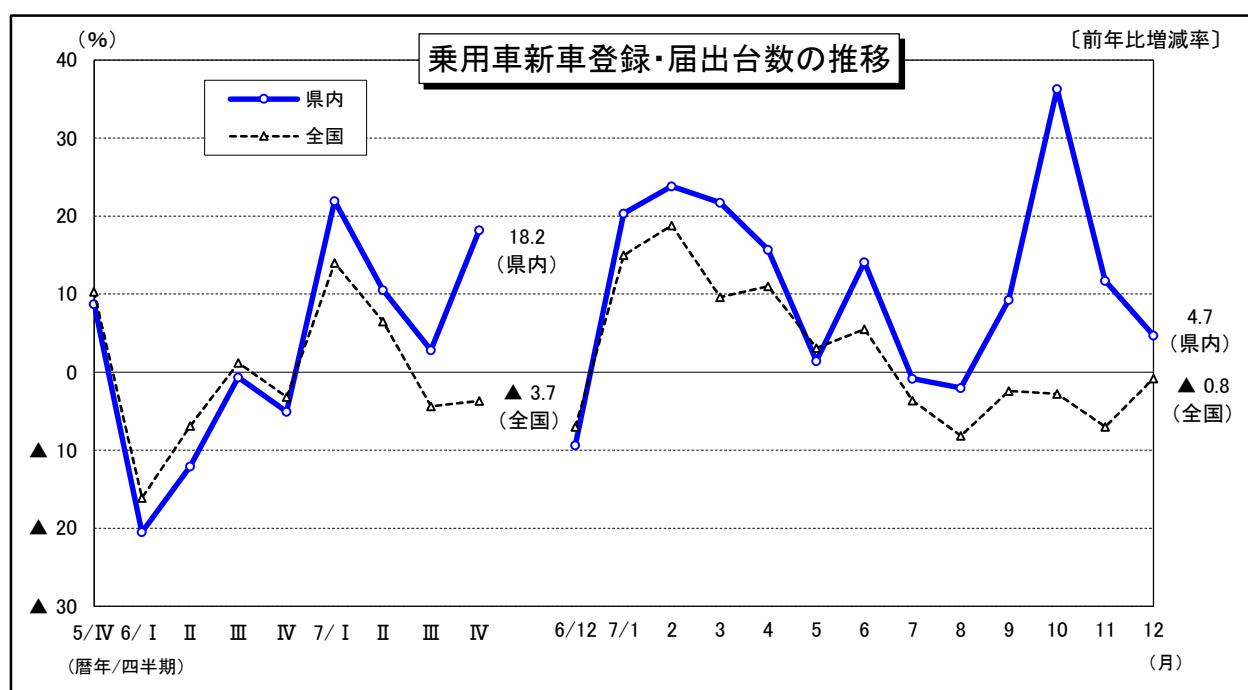
(注)全店ベース。7年11月は速報値。

[資料: 経済産業省]

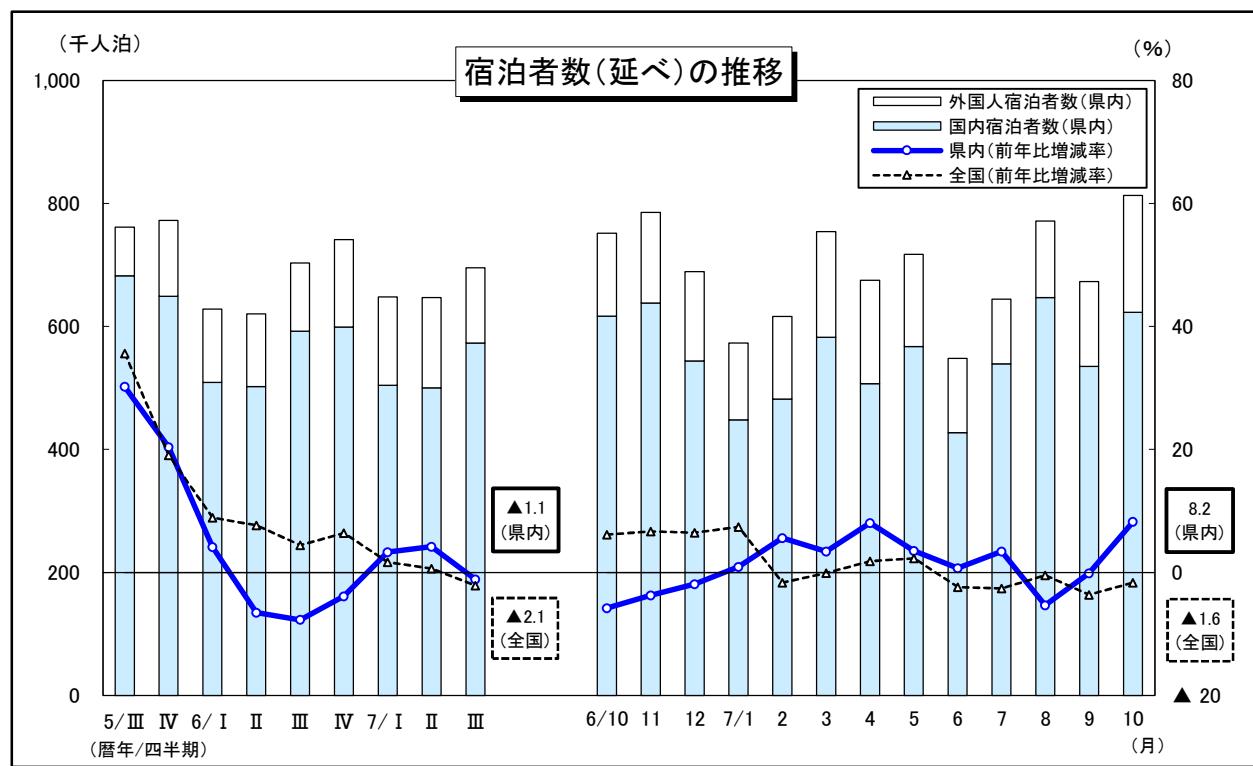


(注)全店ベース。7年11月は速報値。

[資料: 経済産業省]



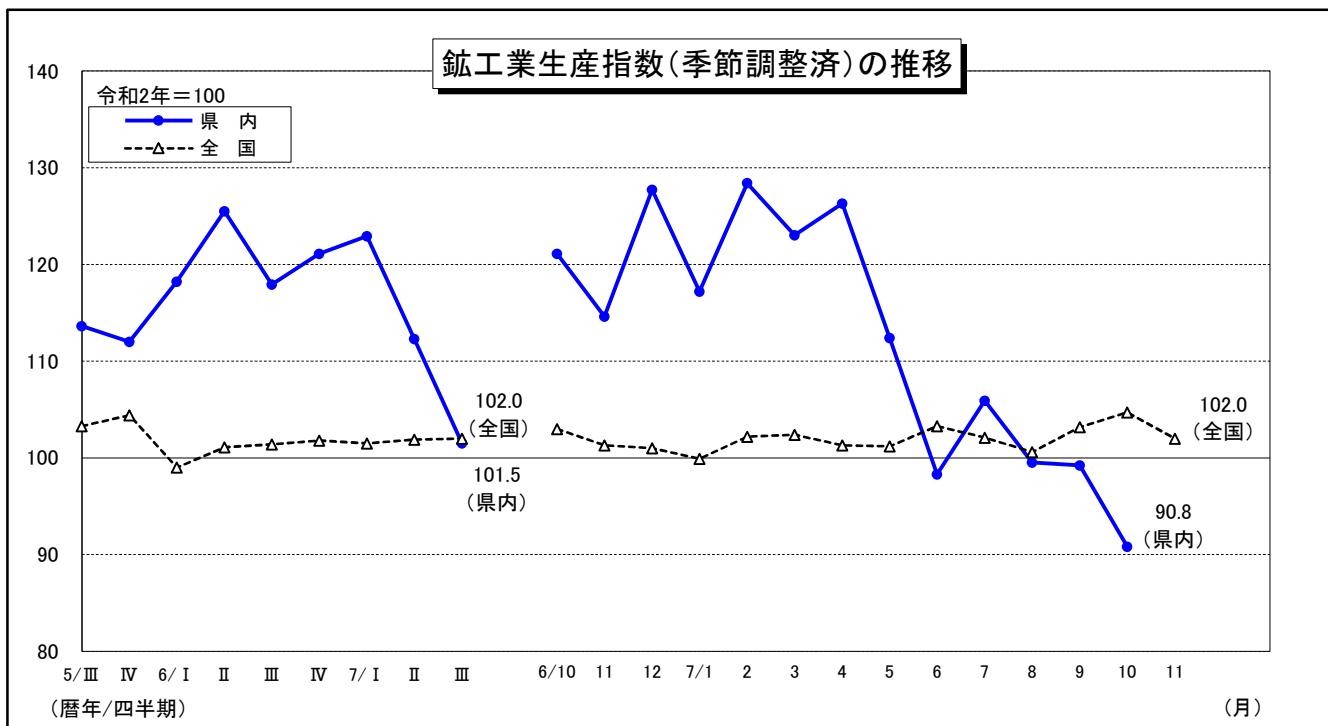
[資料:日本自動車販売協会連合会、熊本運輸支局及び全国軽自動車協会連合会]



(注)四半期の棒グラフは月平均。

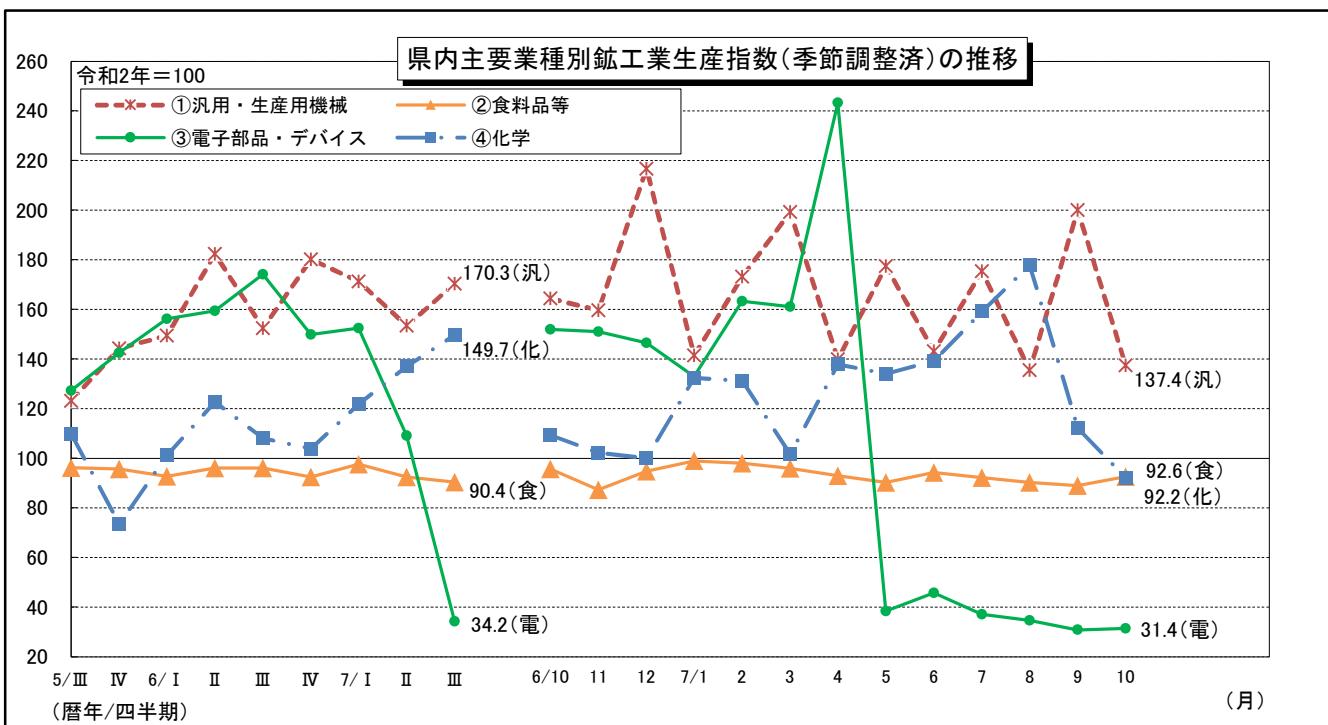
[資料:観光庁]

## 2. 生産活動



(注)全国の7年11月、県内の7年10月は速報値。

[資料:経済産業省、熊本県]



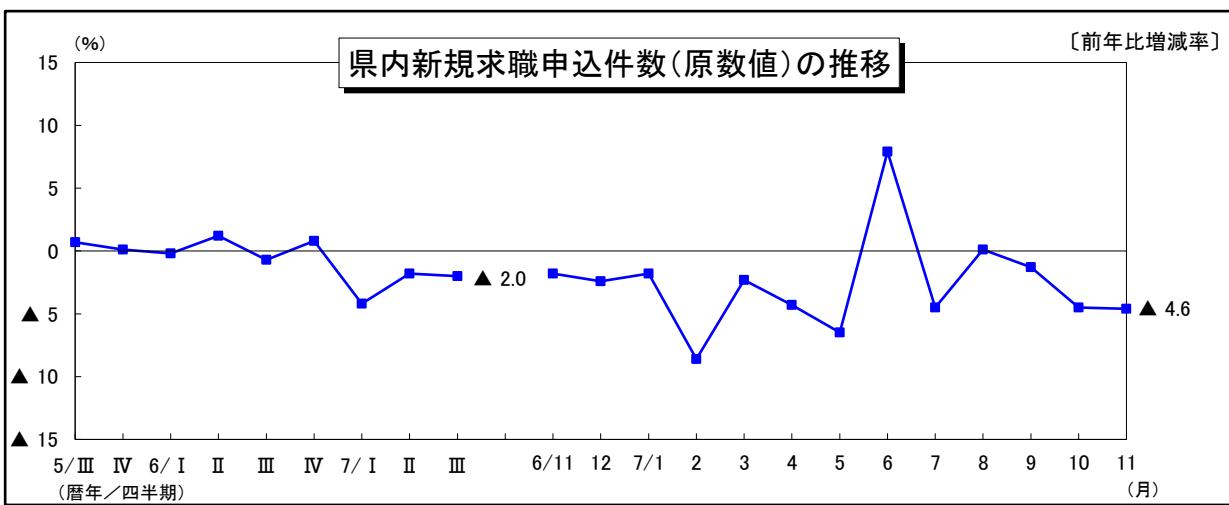
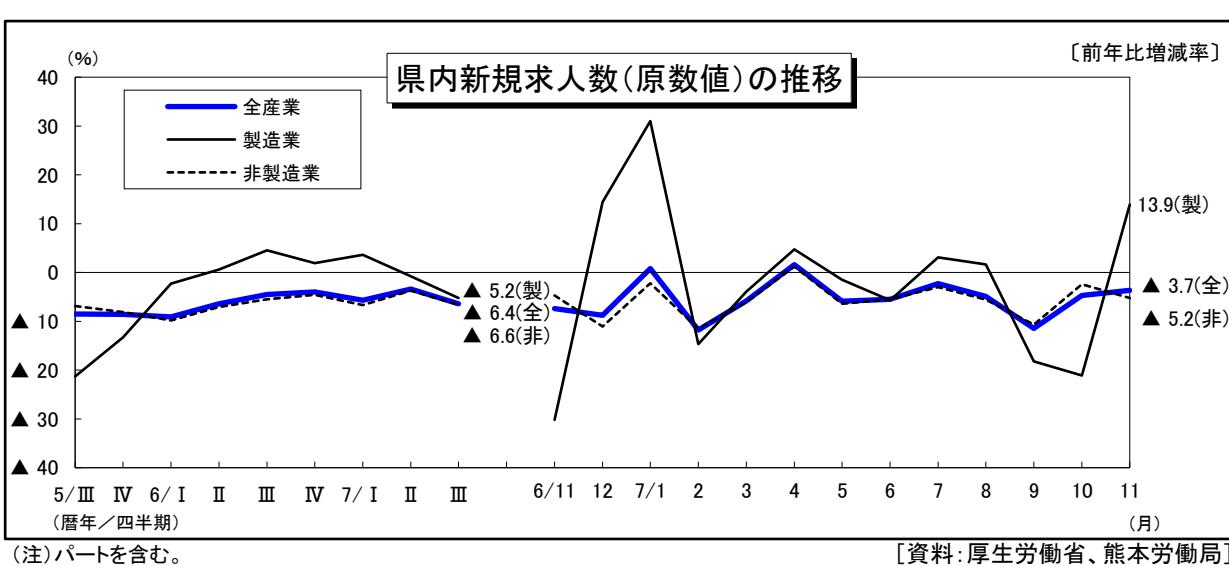
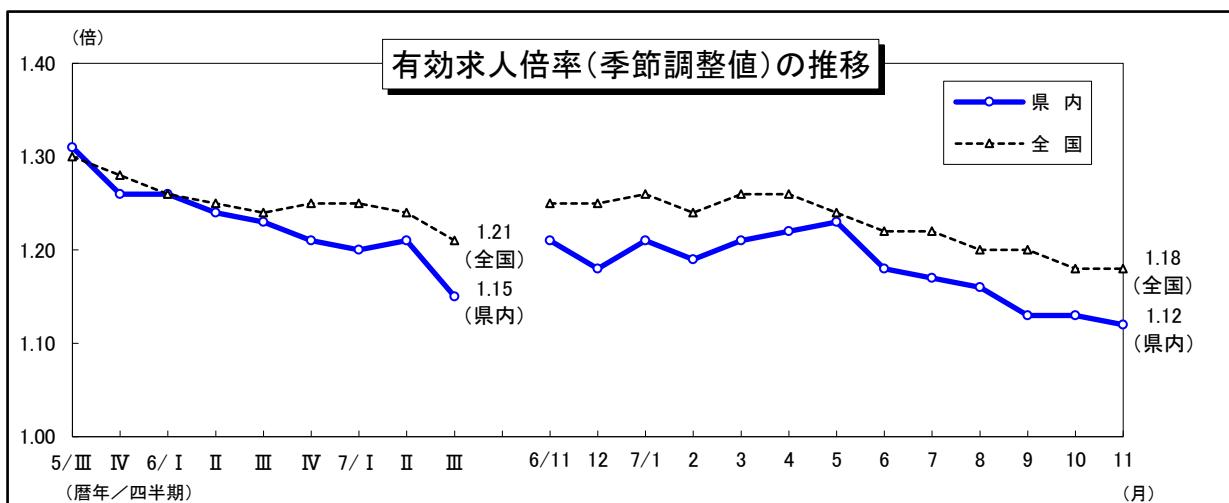
(注)1.7年10月は速報値。

[資料:熊本県]

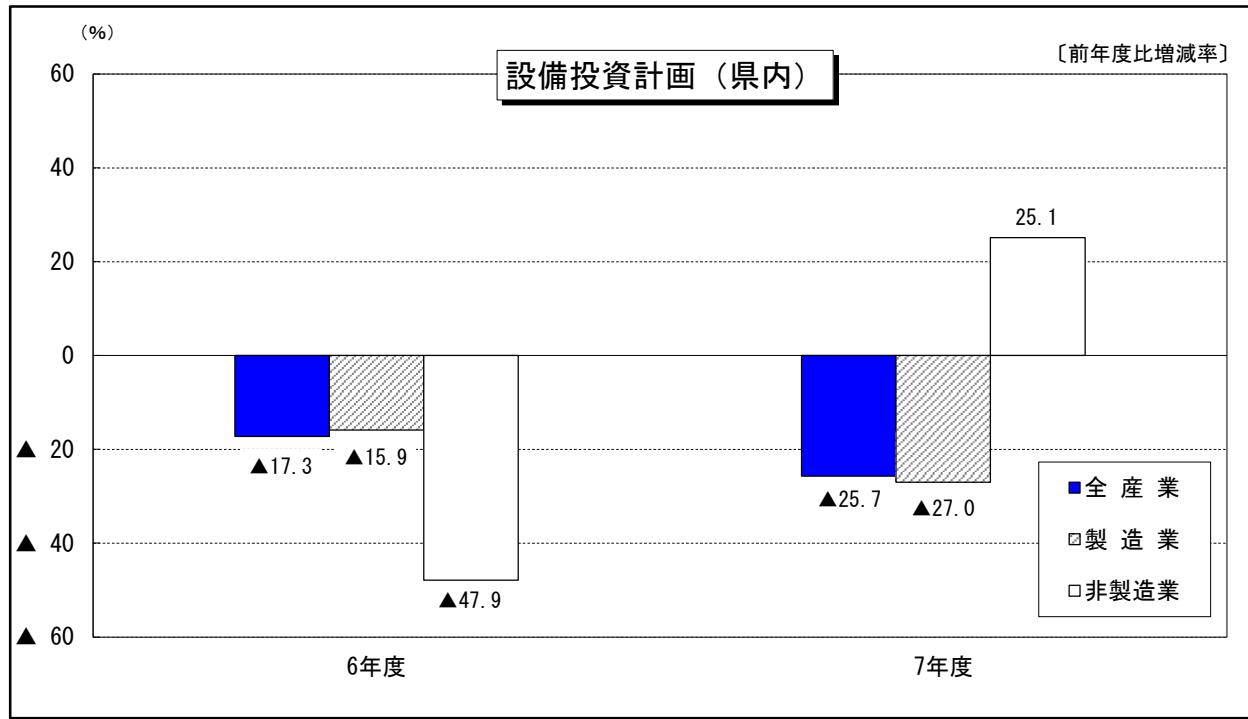
2. ○数字は、県内におけるシェア順位。

3. 電子部品・デバイスについては、7年5月より一部事業所の報告方法が変更されている。

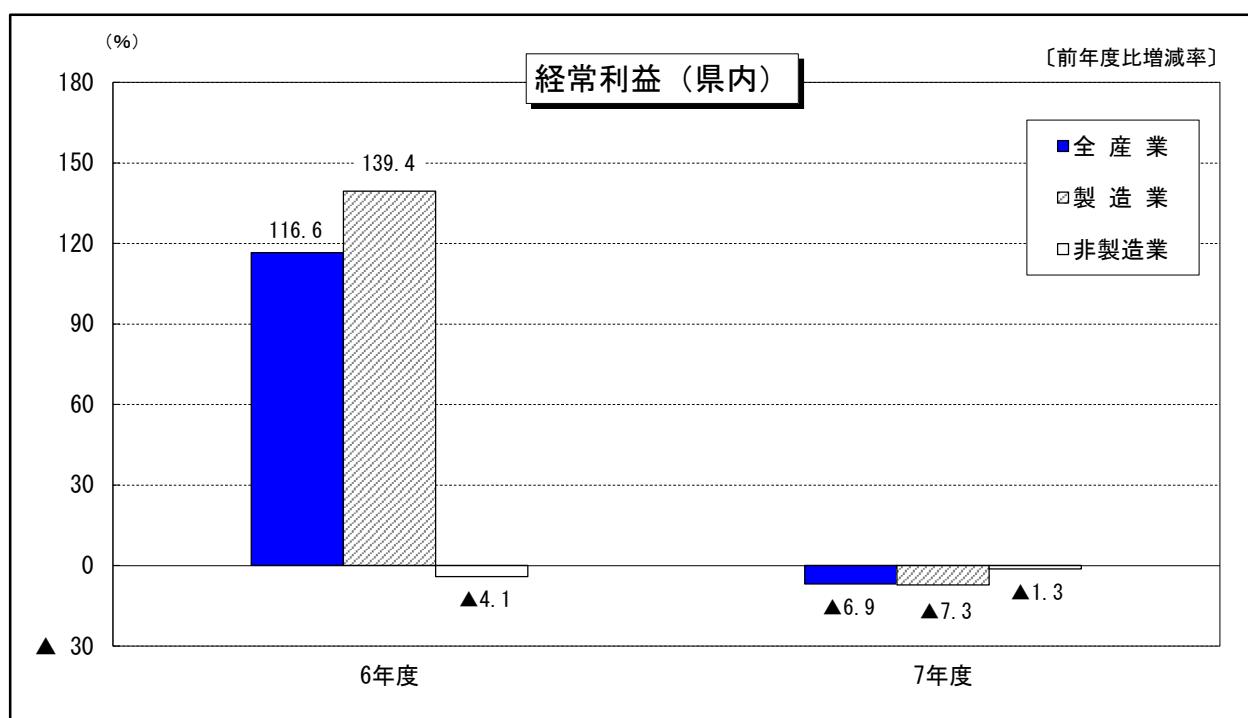
### 3. 雇用情勢



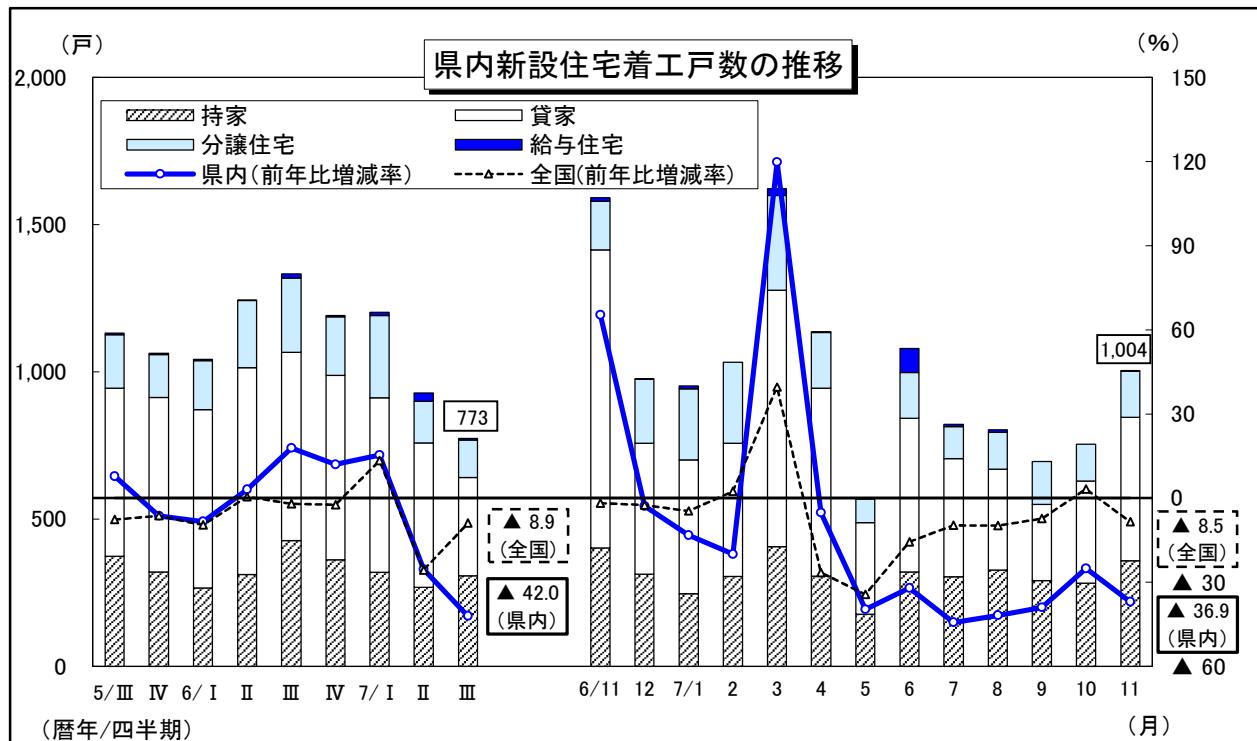
## 4. 設備投資



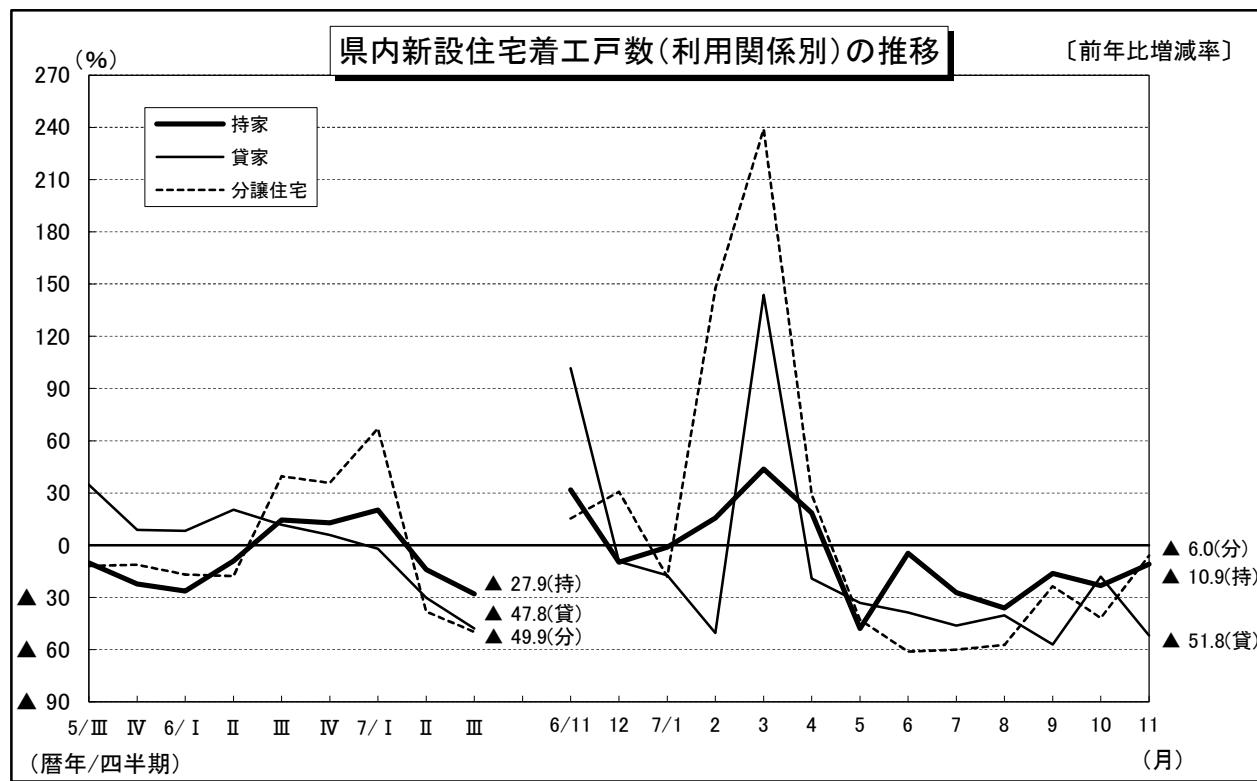
## 5. 企業収益



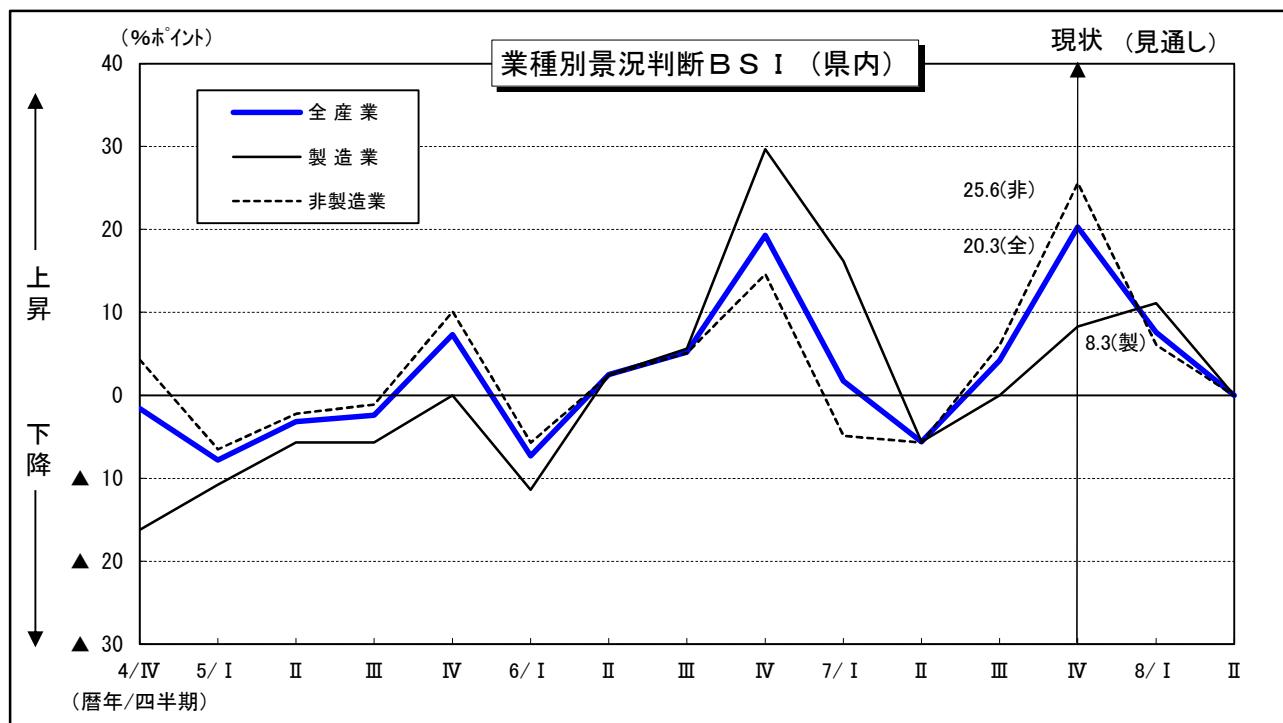
## 6. 住宅建設



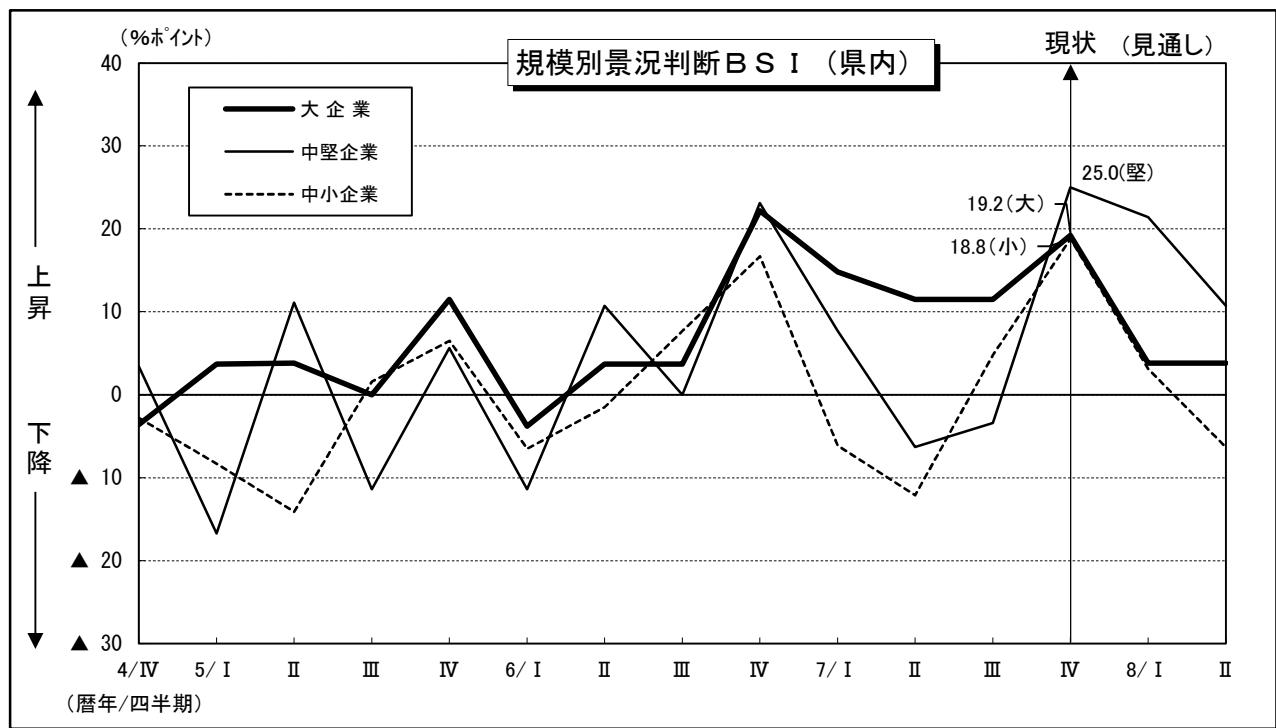
[資料:国土交通省]



## 7. 企業の景況感

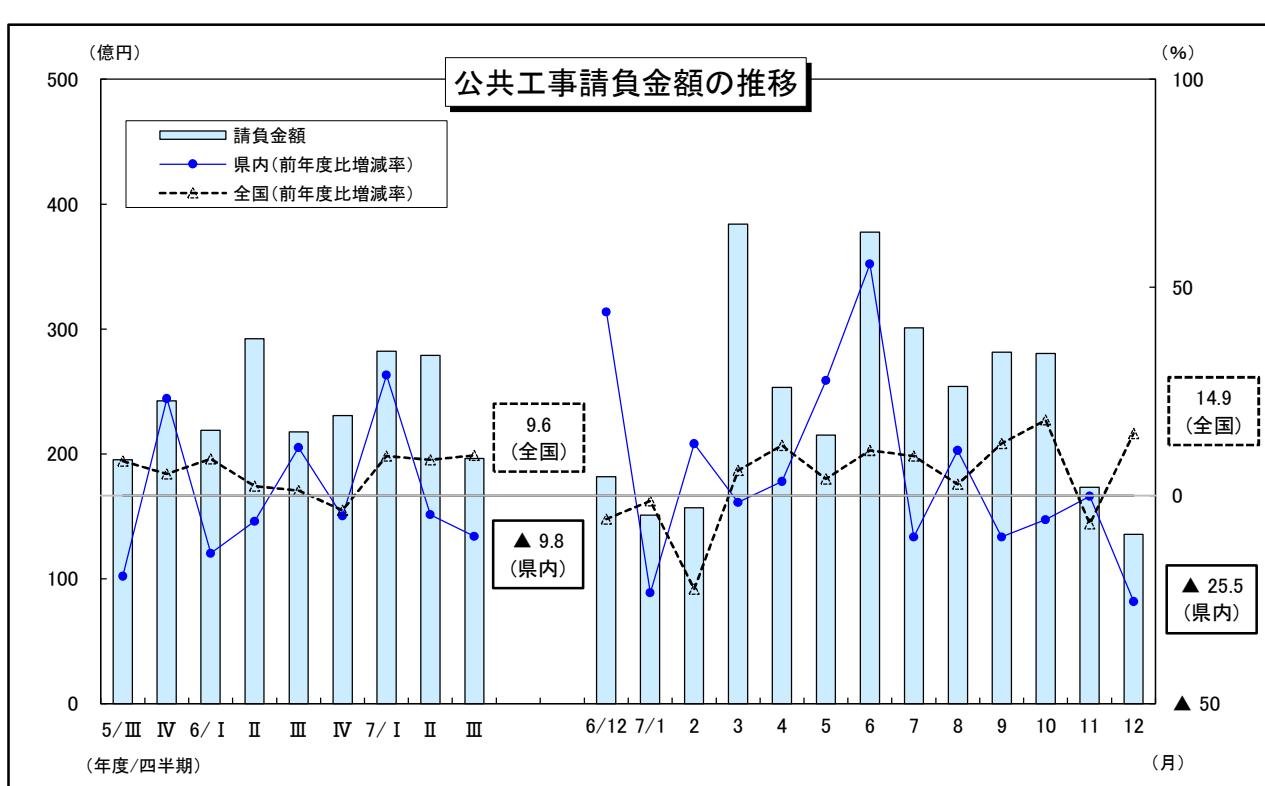
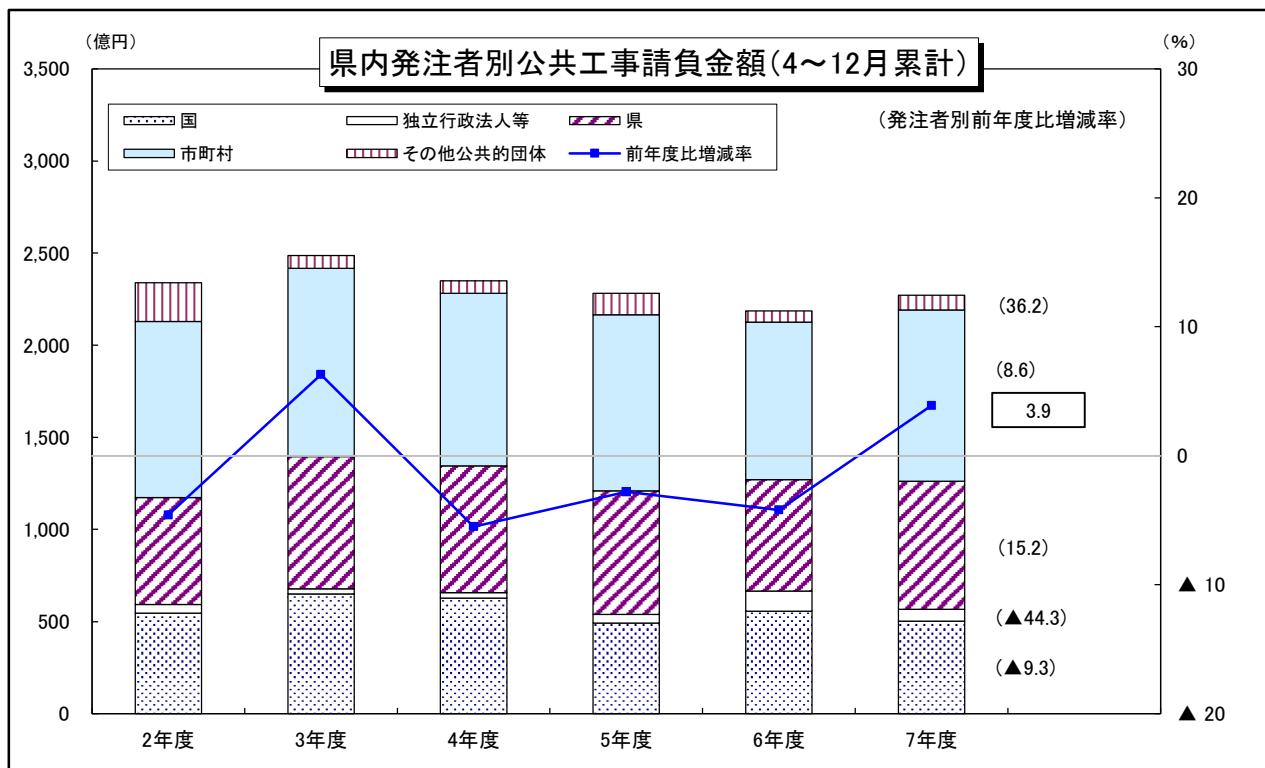


[資料:九州財務局(法人企業景気予測調査)]

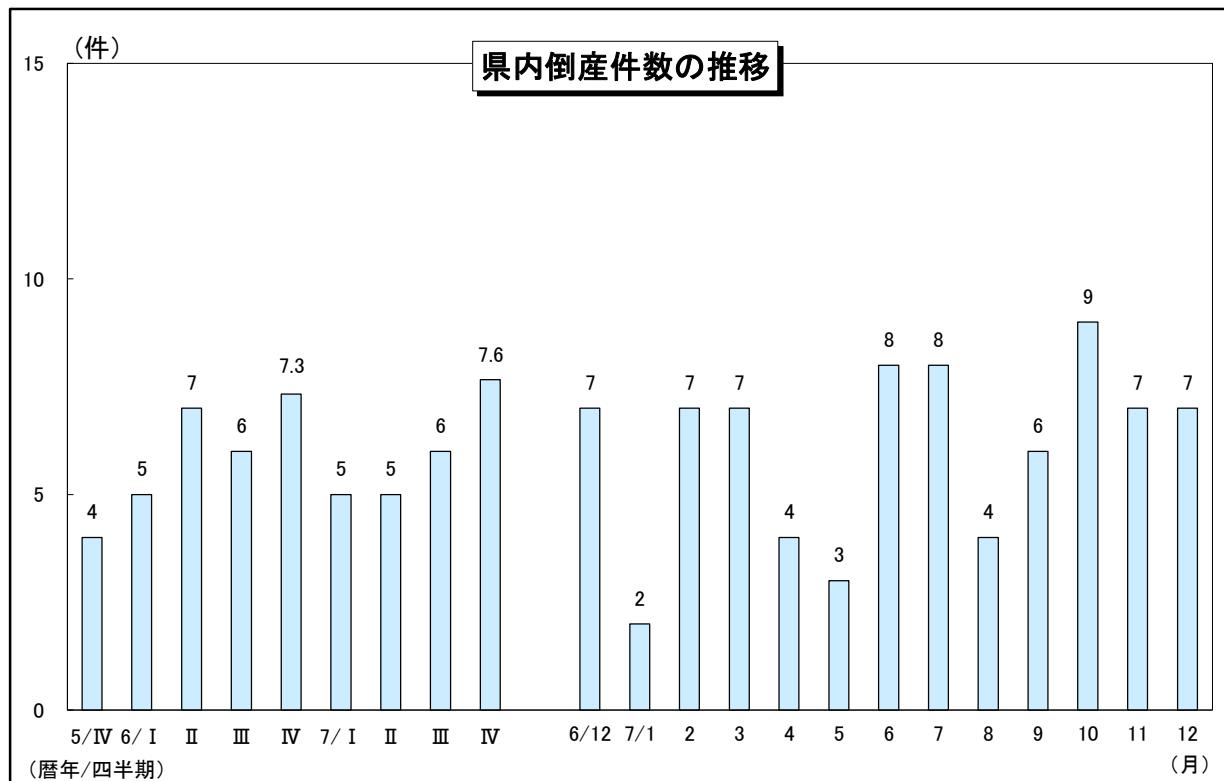


[資料:九州財務局(法人企業景気予測調査)]

## 8. 公共事業

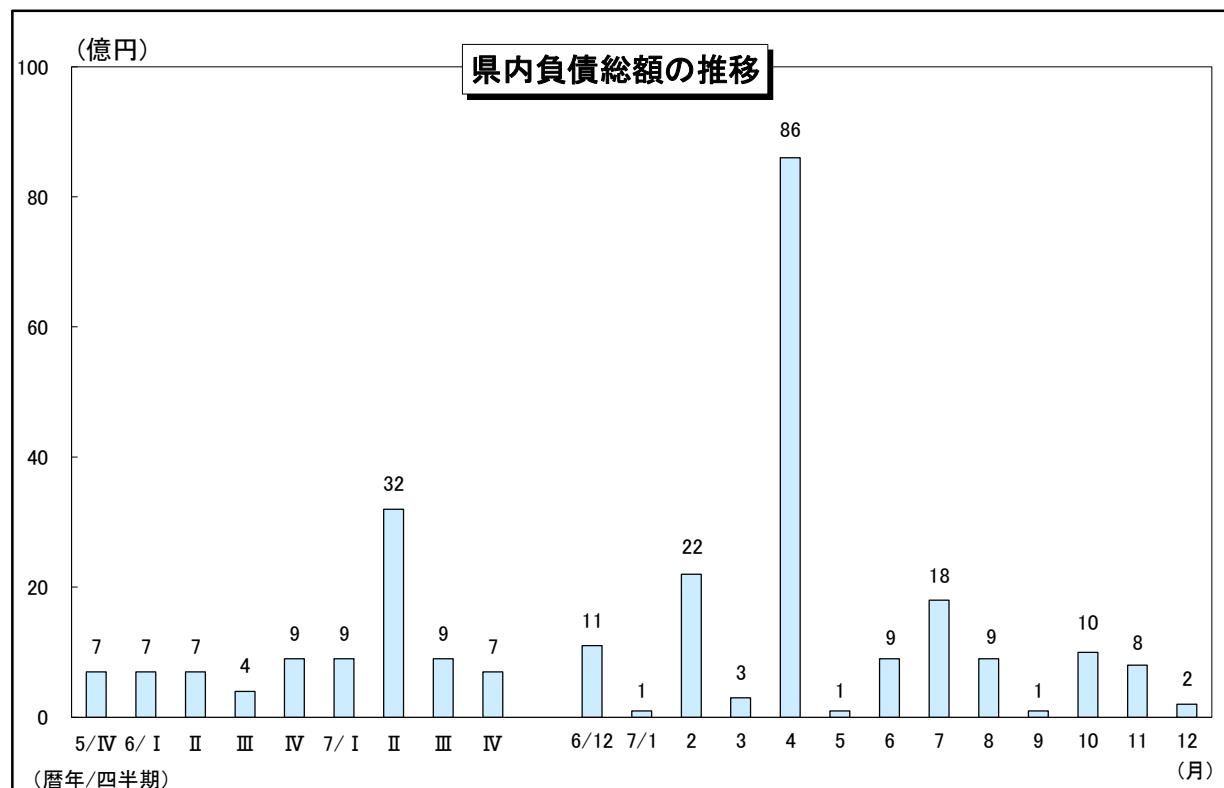


## 9. 倒 産



(注)四半期の棒グラフは月平均。

[資料:東京商エリサーチ]



(注)四半期の棒グラフは月平均。

[資料:東京商エリサーチ]